

生命(いのち)の「つながり」と「にぎわい」

いのちのつながり

これまで君たちに2つの大切なことを伝えてきた。1つ目は、生き物たちはひとりぼっちじゃ生きていけず、他の生き物と食う食われるなどの関係でつながっていること。2つ目は、たったひとつの生き物から鳥やこん虫、ほ乳類や人間が誕生したように、生き物それぞれに歴史上のつながりがあること。この2つのつながりをあわせて「いのちのつながり」と呼ぼう。



いのちのにぎわい

「自然」って一口に言っても、森や草原、海、川のように、いろいろあるよね。森にはフクロウ、草原にはバッタのように、その場所ではかええない生き物もいっぱいいる。草原も、バッタだけでなく、ネズミや、トカゲや、アリや、チョウや、タンポポ…数えきれないくらいたくさんの生き物がいる。

このように、いろいろな場所で、いろいろな生き物がにぎやかに暮らしていることを「いのちのにぎわい」と呼ぼう。

自然の中では、たくさんの種類の生き物がにぎわい、それぞれつながって生きている。そしてそのつながりは、とってもバランスがとれた状態になっているんだ。ちょっと難しいけど、こういうのを「生物多様性」って言うんだよ。

生物多様性のすばらしさ、これが3つ目に伝えたかった大切なことだ。

博士の物知りコーナー 3



「いのちのつながり」を断つ生き物たち

ライオンはシマウマを食べるけど、それは昔からその土地で続く「いのちのつながり」の中で行われている。しかし、人間が外国から持ち込んだブラックバスやブルーギルという魚は、日本の自然界にある「いのちのつながり」には存在しない生き物じゃ。ブラックバスが日本の小魚やこん虫を食べることは、「いのちのつながり」を断ち、生物多様性を傷つけることになるんじゃ。



生物多様性は豊かな自然にしかないの？

そうではない。生物多様性は、都会や君たちが通う学校の校庭など小さな自然にもちゃんと存在するんじゃ。

